

2019年10月4日

ヤクルトシリーズの新テレビCMがスタート！！

株式会社ヤクルト本社（社長 根岸 孝成）は、ヤクルトシリーズの新テレビCM「変なフレーズ」篇（15秒）を10月7日から放送します。

今回も喜劇役者の伊東四朗さん、俳優の大泉 洋さん、女優の藤井美菜さんが登場し、ヤクルトシリーズを紹介します。



【広告の目的】

伊東四朗さん、大泉 洋さん、藤井美菜さん、子どもたちが「ヤクルト」をとおした家族の日常をハートウォームに描きます。

手洗いやうがいと同じように、ヤクルトも日々の健康を支える要素のひとつであるということ、を、「手洗い、うがい、ヤクルト」のフレーズを印象に残るオリジナルのメロディにのせて軽快に表現します。

【放送開始日】

ヤクルトシリーズ「変なフレーズ」篇：10月7日（月）

以上

■出演者プロフィール

伊東四朗(いとう しろ)さん



1937年6月15日生まれ。東京都出身。
58年に軽演劇の石井均率いる劇団「笑う仲間」に参加し浅草松竹演芸場でデビュー。
61年に三波伸介、戸塚睦夫と「ぐうたらトリオ」を結成。
62年には「てんぷくトリオ」と改名。
65年の日本テレビ『九ちゃん!』でレギュラーに抜擢される。
75年のTBS『笑って!笑って!60分』では小松政夫演じる「小松の親分さん」との絶妙な掛け合いを見せる。
76年のテレビ朝日『みごろ!たべごろ!笑いごろ!!』では、「ベンジャミン伊東」の名で唄い踊ったバカバカしい「電線音頭」で世間を騒がす。
83年にはNHK連続テレビ小説『おしん』のシリアスな父親役を演じる。以後も多数のテレビドラマ・映画・クイズ番組や歌番組の司会、そして、ラジオのパーソナリティーとしても多彩ぶりを発揮している。八面六臂の活躍の一方で、「笑い」にこだわった舞台を創りだしている。
97年三宅裕司とコントライブ『いい加減にしてみました』(2002、2010にも上演)
04年には「伊東四朗一座旗揚げ解散公演」を上演。好評を博す。現在不定期ではあるが、年一回は舞台に出演。“喜劇役者としてのこだわり”を持ち続けている。
最新作として、伊東四朗魔がさした記念コントライブ『死ぬか生きるか!』(紀伊國屋サザンシアター)がある。
主な著者に『この顔で悪いか!』『この顔でよかった!』『ボケてたまるか!』(以上集英社)など。

大泉 洋(おおいずみ よう)さん



1973年4月3日生まれ。北海道出身。
演劇ユニット“TEAM NACS”のメンバーとして舞台公演で人気を博す。
2005年より全国で活躍の幅を広げ、TVドラマ・映画に続々出演。
主な出演作として「ハケンの品格」(2007年/日本テレビ)、「ラッキーセブン」(2012年/フジテレビ)、「連続テレビ小説『まれ』」(2015年/NHK)、映画「探偵はBARにいる」シリーズ(2011年、2013年、2017年)、「清須会議」(2013年)、「青天の霹靂」(2014年)、「アイアムアヒーロー」(2016年)など。
映画「駆込み女と駆出し男」(2015年)では第58回ブルーリボン賞主演男優賞、第39回日本アカデミー賞優秀主演男優賞を受賞。
2016年はNHK大河ドラマ「真田丸」で主人公の兄である真田信之を演じ、その好演ぶりが話題となった。
2018年12月には、主演映画「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」が公開。
2019年7月、TBS日曜劇場「ノーサイド・ゲーム」主演。

藤井 美菜(ふじい みな)さん



2006年「シムソンズ」(佐藤祐市監督)で映画デビューし、本格的に芸能活動を開始。その後ドラマ「ドクター調査班～医療事故の闇を暴け～」(テレビ東京)「節約ロック」(日本テレビ)映画「DEATH NOTE Light up the NEW world」「しゃぼん玉」など映画ドラマを中心に活躍。

2012年韓国でも活動を開始し、「第11回ソウルドラマアワード2016」アジアスター賞受賞。

2016年、映画「もっと猟奇的な彼女」がアジア各国で公開され、2017年秋から2018年3月には日台合作映画「おもてなし」が中国、台湾、日本で公開された。2019年には韓国の連続ドラマ「ドクター探偵」にレギュラー出演と、アジアでの活躍の場を広げ、国際的にも高い人気を博している。